

令和6年度 学校評価報告書

小樽市立稲穂小学校
校長 遠藤 隆典

【自己評価】

数値目標に対する達成度を、以下の基準で評価
A: 100%以上
B: 80%以上100%未満
C: 80%未満

【学校関係者評価】

学校の自己評価に対し、以下の基準で評価
◎: 適切である
○: おおむね適切である
△: 適切でない

1 本年度の重点目標

◎学校教育目標 「りこうで たっしやで ほがらかな稲穂の子」
重点＝具体的に目指す子どもの姿 ○わかったことや思ったことを表現することができる(ICTも含む) ○自分の体を知り、体力向上や健康に気を付ける ○より良いものを作り出すために学級・学年や異学年と協働できる ○人の話や文をしっかりと理解し、行動することができる ○学習したことや他の意見、調べたこと(ICTを含む)をもとに答えを見付ける ○自分の言動に責任をもち、より良い行動を考え、進んで取り組む ○相手意識をもち、全ての人が等しく価値ある存在として大切にすること ○いじめを許さず、自他の命を大切にしたい行動をとることができる

2 自己評価結果・学校関係者評価の概要と今後の改善方策

小樽市教育推進計画の目標	施策項目	数値目標	自己評価		学校関係者評価
			評価	取組状況・達成状況	
1 未来を創る力の育成	確かな学力の育成	全国的学力調査の平均正答率が全国以上	B	各教科の毎時間の評価規準を踏まえた確かな定着を図る言語活動を取り入れた授業改善を進めた。全国学力・学習状況調査結果は、国語・算数は共に全国比で上回った。標準学力調査では、3年、5年共に国語・算数の全国平均正答率を下回った。	◎
	特別支援教育の充実	特別支援教育に関する研修を5回以上実施する。通常学級における特別な支援を要する児童の指導計画の中間検証・見直しを100%行う。	A	特別支援教育の視点で教育活動を見直し充実を図った。特別支援教育の研修を7回実施。特支学級在籍児童、通級指導要する児童、通常学級在籍の支援を要する児童の個別の指導計画の中間検証・見直しは100%実施。	◎
	国際理解教育の充実	児童アンケート「外国語を使いたいと思う」肯定的回答、3学年以上で80%以上	A	子どもたちが外国語を使いたいという意欲の向上を年間を通じて指導の重点に加え取り組んだ。前期児童アンケート「外国語を使いたいと思う」肯定的回答が3学年以上で85%以上。	◎
	理数教育の充実	教職員自己評価「算数・理科の授業で、考えを説明したり話し合う活動を日常的に取り入れている」の肯定的回答90%以上	A	自分の考えを説明したり話し合う活動を重視した授業改善を進めた。教職員自己評価の肯定的回答は100%。また「主体的・対話的で深い学びを実現する『子どもが主語の授業づくり』に努めている」の肯定的回答が前期88%から後期100%へ高まった。	◎
	情報教育の充実	児童アンケート「タブレット端末を自分で工夫して使っている」肯定的回答が4学年以上で80%以上	A	「主体的・対話的で深い学び」へ向け個々の端末の活用による個別最適な学びの実現へ向けた授業実践を全校で進めた。児童アンケート「タブレット端末を自分で工夫して使っている」肯定的回答が4学年以上で82.7%。	◎
	キャリア教育の充実	勤労観や職業観を育む施設見学や外部講師による授業を3学年以上で実施する。	A	キャリア教育の取組を3年以上で計画的に実施している。5年生が地域施設での職場体験を行ったほか、全学年で地域施設の見学や外部講師を招いた出前授業などでキャリア教育を実施した。	◎
改善方策		確かな資質・能力として学力の定着には、日々の授業に子どもが自分ごととして主体的に学ぶことが不可欠と考え、UDL(子どもの視点及び特別支援教育の視点に基づいた授業づくり)による「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業改善を学校全体で進めた。今後は、指導事項の確実な定着を全体指導で確実に実施し、子どもが主体的に学びに向かい、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図りながら自分の考えを深めさせて、育成すべき資質・能力の定着につなげていく。			
学校関係者評価委員による意見		評価・改善策は適切である。今求められている授業へ向けての授業改革の取組や地域性を生かした豊かな学びを大切にしていこうと、子どもたちの資質・能力の向上につながる事を期待している。			
2 豊かな心の育成	道徳教育の充実	教職員自己評価において「道徳の授業で自分の考えを深めさせる学習活動を日常的に取り入れている」と回答する授業者90%以上	A	道徳授業において価値項目に対して自分なりにふり返り考え深める指導への工夫改善に全学年で取り組んだ。「道徳の授業で、自分の考えを深めさせている学習活動を日常的に取り入れている」の肯定的回答は100%である。	◎
	ふるさと教育の充実	副読本や地域の教育資源・人材を活用したふるさと教育を全学年で実施する。	A	全学年で郷土の教育資源を活用した学習に取り組んだ。1、2年生の生活科「まちたんけん」や3～6年生の社会科や総合的な学習の時間「みのりタイム」など全学年で地域施設訪問や外部講師を活用した授業を行った。	◎
	読書活動の推進	1日に読書に30分以上親しむ児童の75%以上	C	朝読書や空き時間の読書推奨、読書環境整備に継続して取り組んだ。児童アンケート「1日にどのくらい本を読んでいますか」の30分以上の回答が48%であることの改善へ向け読書アプリを試験導入した。その取組により、全学年で端末で読書に親しむ姿が増え、2学期末保護者アンケートで読書習慣の定着を81.6%が肯定的評価と回答するなど改善が進んだ。	△
	体験活動の推進	地域の行事やイベントへの参加したりボランティア活動体験を全児童の80%	A	潮ねりこみ・PTAハロウィンパレード・朝のラジオ体操など児童保護者が参加しやすい地域イベントをPTA・CSで積極的に検討実施した。実施児童アンケート「地域のイベント等に参加しようと思う」への肯定的回答が86.2%だった。	◎
	コミュニケーション能力の育成	授業での話し合い活動を通して、自分の考えに役立っていると考えている児童の割合を90%以上	A	授業において、他者の考えを参照しながら自分なりに考え深める学習展開を全校で大切にしている。児童アンケート「授業では友達の話や考えも自分の考えに役立っていますか」の肯定的回答が96.1%。	◎
	いじめの防止や不登校児童生徒の支援の充実	いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う95%	B	いじめ防止へ向け、全校朝会や児童会活動、学級指導を通じて日常的に働きかけている。しかし、「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」と回答した割合は、全学年で92.5%で目標を下回った。	◎
改善方策		学校図書館の環境整備をより一層充実させ図書に親しむ機会を増やすと共に、端末による読書アプリの学校・家庭での効果的な活用を検討し読書習慣を定着させていく。いじめ見逃し0へ向けた働きかけは、今後も全校で重点化して指導していく。全職員により児童個々へのあたたかいかわり方で心理的安全性の高い学級学年集団をつくりあげ、豊かな学びにつながる人や地域と関わる体験的な活動の充実を今後も増やし充実させていく。			
学校関係者評価委員による意見		読書習慣の推進については、自己評価がCというのは厳しすぎる。学校課題である児童の状況等に向き合い、改善策を学校全体で取り組んでいく大きく改善方向にあり向上中であると期待している。目標数値に達していないということでBとし、今後も取組を継続し、改善に繋がることを期待している。			

小樽市教育推進計画の目標			施策項目	数値目標	自己評価		学校関係者評価
					評価	取組状況・達成状況	
3	健やかな体の育成	体力・運動能力の向上	新体力テスト合計点で全国平均を7割以上の種目で上回る	B	体力向上への個々の課題意識を高めるため好記録ランキングの掲示物や個々が自己検証できるアプリを導入し、春・秋の2回、全校で新体力テストへの意欲を図って取り組んだ。政府統計体力運動能力調査R5結果と比較し、全国平均を上回ったのは全学年全種目中64.1%であった。	◎	
		食育の推進	栄養教諭等による食育の授業と「給食メモ」を活用した学級指導の全学級実施	A	食育教育の全体計画に基づき食育授業を計画的に実施した。全学年・全学級で栄養教諭による食育指導を実施した。	◎	
		健康教育の充実	外部講師による健康や性教育に関する出前授業の実施2つ以上の学年で実施	A	外部人材による健康教育の出前授業を計画的に実施した。協会病院産婦人科医による授業を4年生の保健の授業で(2時間×2学級)を実施した。また、2年生にも体の発育とプライベートゾーンを大切にす	◎	
改善方針		・体力テストの学年別上位記録を掲示物で知らせることで児童・保護者の関心も日常的に高めることができるが、体力向上への意識の個人差は大きいので、端末のアプリを活用して自分の体力的課題と今後の目標を意識させ、体育授業とリンクさせながら体力向上を図っていく。また、運動に親しむ機会をチャレンジ企画で増やしたり、運河ロードレースのような地域イベントも効果的に周知していく。					
学校関係者評価委員による意見		評価・改善策は適切である。体力・運動習慣向上への意識が子どもたちの中に高まるよう取組を今後も工夫して働きかけていくことを期待している。					
4	家庭・地域との連携・協働の推進	家庭教育支援の充実	年間複数回の生活リズムチェックシートの活用＋保護者面談での活用100%	A	1学期・2学期に1週間ずつ生活リズムチェックシートを活用し、児童の自己指導力育成を図ったり保護者と共有したりした。	◎	
		学校と地域の連携・協働の推進	保護者アンケート「学校はCSとして地域・家庭と協働してよりよい学校づくりを進めている」の肯定的評価90%以上	A	学校花壇、朝のラジオ体操のサポート、地域見守り200daysの取組、PTAハロウィンパレードでの協力など、地域と連携して様々な取組を実施することができた。保護者アンケート「学校はCSとして地域・家庭と協働してよりよい学校づくりを進めている」の肯定的評価が96.0%だった。	◎	
改善方針		・PTA及び地域と連携を強めていくことで様々なイベントや取組にとても多くの児童保護者が参加し、地域との関わりも深められている。今後も地域とのかかわりを深める活動を児童に体験させる教育活動及び事業を検討・実施していく。保護者アンケートでの意見やPTA役員・学校運営協議会委員の学校運営への感想・意見をもとに、各種教育活動の推進や取組の改善に生かしていく。					
学校関係者評価委員による意見		評価・改善策は適切である。PTA活動を中心に地域イベントとして「潮ねりこみ」・「ハロウィンパレード」・「雪あかりの路」に大変多くの子どもと保護者が参加し、地域商店街にも協力いただくなど学校と地域の連携が深まっていた。次年度は130周年なので更に学校・PTA・地域で盛り上げて連携・協働が深まっていくことを期待している。					
5	学びと育ちをつなぐ学校づくりの実現	学校段階間の連携・接続の推進	中学校の授業参観及び小中連携全体会への参加全教職員の90%	A	小中一貫教育グランドデザインを両校で共有し通年で合同研修会を開催した。今年度も、西陵中の公開研究会・全体研修会には本校教職員100%が参加。本校の公開研究会にも中学校より教職員が複数参加した。また、双方の授業参観日を活用して授業を参観し合った。	◎	
		教育環境の整備・充実	教職員アンケート「学校は働きやすさへ向けた取り組みを進めている」肯定的回答80%以上	B	包括的な学校改善としてICTを活用した校務改善に多面的に取り組んだ。教職員アンケートの肯定的回答は84.6%。しかし「仕事内容を見極め、効率的な時間配分を考え、退勤時刻を意識して業務に取り組んでいる。」の肯定的回答が71% (前期66%) と達成できていない。	◎	
		教職員の資質・能力の向上	職能向上につなげるミニ研修を年間10回以上実施する。	A	研修計画で年間を通じて研修及びミニ研修を位置づけ充実を図っている。ミニ研修は2学期までに10回実施。その他各自によるオンデマンド研修・オンライン研修や各種研修会に全職員が積極的に参加し職能向上につなげていた。	◎	
		学校運営の改善	月45時間以上の超過勤務全職員15%以下	B	端末を活用した情報共有など教育DXのもと業務の効率化に多角的に取り組んだ。月45時間以上の超過勤務の職員の割合は4月～11月で約16.9%であった。昨年度より、2学期はやや超過勤務時間が増えてしまった。	◎	
		学校安全教育の充実	防犯教室及び防犯訓練の複数回実施	A	安全教育の全体教育に基づき計画的に安全指導の授業を実施した。警察署による1年生への防犯教室、全校児童への不審者対応の講話と不審者侵入時の避難訓練と教職員の対応訓練を実施。保護者への引き渡し訓練も実施し、不審電話発生の際にスムーズに対応できた。	◎	
改善方針		・中学校とグランドデザインに基づき、両校の教職員で様々な取組の検討をすることができる風土になったので、今後は各部会での検討事案を具現化していく。学校DXのもと教育の質を高めながら働き方改革を多面的な推進や取組の発信ができたが、働きがい・働きやすさを検証しながら改善の取組の充実を進めていく。不審電話対応に保護者関係機関と連携し、落ち着いて対応できたが、今後も危機管理意識を継続して高めていきたい。					
学校関係者評価委員による意見		評価・改善策は適切である。6年生が不安定な状況になったが子ども達の様子などを3学期はテトルでこまめに伝えてくれたことは、様子が少し分かり安心につながった。生徒の問題行動が一部で起こってしまうことで学年全体が不安定になり教職員の大変さが増える事を感じた。安全・安心な土台作りを大切にしたい取組を今後も継続してほしい。					
社会教育に関連する目標(目標6～8)			市立図書館や総合博物館などの社会施設を活用した授業の全学年で実施	A	学校全体で地域の教育資源を生かした特色ある教育活動の検討と実施を進めた。1年給食センター、2年図書館・自然の村、3年博物館・警察署・消防署、4年終末処理場、給食センター・屋形船・豊倉浄水場・博物館・札幌青少年科学館、5年小樽海技短期大学・博物館・みなと資料館・おこばら山荘、6年生社会福祉協議会・ウボボイ・火山科学館など社会施設を活用した。	◎	
改善方針		・市中心部に位置する本校の地域性を生かし、今後も地域の施設や学芸員等の講師を招いた体験的な教育活動の充実に取り組んでいく。今後、探究的な学びの場として、個々が課題意識を高めて社会施設における学びを行っていく活動を検討・実施していく。					
学校関係者評価委員による意見		評価・改善策は適切である。恵まれた環境にある本校の地域性を生かして今後も地域社会施設をたくさん活用した教育活動を通して豊かな学びを継続・充実して欲しい。					